11月宣伝スポット

　私たちは「戦争する国づくり」ストップ! 憲法を守り・いかす共同センター」です。

皆さん、総選挙では裏金問題・「政治とカネ」問題に対する国民の怒りが与党を過半数割れに、そして、憲法改悪を狙う改憲派を衆議院では発議に必要な3分の2議席以下に追い込みました。

石破首相は、総裁選では国会での与野党の議論の重要性を訴えていましたが、首相になった途端にそれまでの発言を撤回して80分の党首討論を開くのみで、就任わずか8日後に「ご祝儀相場」を当て込んで解散・総選挙を実施しました。最大の争点、そして最後まで尾を引いたのは、派閥の裏金問題・「政治とカネ」問題でした。

自民党は、派閥裏金事件に関係した国会議員らのうち非公認は、萩生田光一元政調会長ら６人に、菅家一郎氏ら６人を新たに加え、計12人とし、また、政治資金収支報告書に不記載があった議員については、比例代表との重複立候補を認めないとしました。しかし、非公認候補が当選すれば公認すると、驚くような「救済措置」を付けました。

 そして、非公認候補が代表を務める政党支部に自民党本部から2000万円が支出されていると、しんぶん赤旗が報じました。石破首相は「党勢拡大のための活動費として政党支部に向けた支出であり、非公認候補に出したものではない」として、法的に問題なしと強調しましたが、これが自民党にとどめを刺す結果となりました。

選挙の結果、自民党は公示前勢力から56議席減の191議席、公明党も８議席減の２４議席、自民・公明合わせた与党で215議席となり、総定数465の過半数の233議席を下回りました。野党は250議席となりました。

　裏金議員の当選率は、17勝28敗でした。非公認となった12人のうち３人が不出馬、9人が無所属で選挙に挑み、当選は平沢勝栄氏と萩生田光一氏、西村康稔元のみであとは落選。また、牧原秀樹法相は小選挙区と比例で落選、小里泰弘農林水産大臣も落選しました。公明党の石井啓一代表は比例では立候補せず、小選挙区で落選しました。

　このような選挙結果となったことに、石破氏は「厳しい結果」は国民の「叱責」と受け止めていると述べ、自民党が「心底から反省」する必要を強調し、そのうえで、「職責を果たしてまいりたい」と述べ、続投する意向を表明した。そして、連立与党が過半数を割った状態での政権運営については、公明党以外との連立を「いまこの時点で想定しているわけではない」と話し、少数与党で国会を運営していくと話しました。

　過去には少数与党政権がありました。1994年羽田内閣は少数与党となり、結局、在任64日で退陣やむなきに至りました。石破少数与党政権がどうなるか、先が見えている状況です。

　NHKの世論調査によると、国民が投票先を選ぶ際に最も重視したのは、「景気・物価高対策」、次いで「社会保障制度の見直し」、「『政治とカネ』の問題への取り組み」、「外交・安全保障」で、「憲法改正」はわずか2%にすぎませんでした。今、石破政権に求められていることは、憲法改悪ではなく国民の望む政治にまい進することではないでしょうか。

　皆さん、総選挙で与党を過半数割れに、衆院での改憲派を3分の2以下に追い込みました。政権与党に厳しい審判を下した国民の力で、私たちの暮らしを守るために、引き続き石破政権に私たちの要求を突きつけていこうではありませんか。